

〔延喜式三十三〕正月最勝王經齋會供養料○註 僧別日菓菜料○中 細昆布以一卷 索昆布二條 昆布以二帖 充二帖

仁王經齋會供養料

僧一口別○中 細昆布海菜料、以一 廣昆布海菜料、以一帖 右一日供料依前件

〔延喜式三十九〕年料

陸奥國索昆布卅二斤、細昆布百 右諸國所貢、並依前件、仍收贄殿擬供御

〔執政所抄正月〕十五日

粥御節供事

御菜二前○中 一折敷 瓜、昆布、蓮根、蕪

〔年中定例記〕殿中從正月十二月迄、御對面御祝已下之事、

一今朝九月より御粥まいる、又燒栗九、昆布九きれ、四方いも、酒百日參候、

〔婚禮推諫記〕昆布の事、中より折たる所を向江して一把宛堅に雌羽に重かけ積べし、雌羽とは右より左へ積事也、如此重候へば、上座へ披露の時に、貴人の右の方上へ成によりて雌羽と云なり、

師傅に、上は五十把、中は卅把、下に十把也、十把以下は、紙に一把宛包積たる事も有、

〔南留別志二〕一いはひの時、昆布の切様に、ひきまたといふ事あり、かへるのまたに象るといふは心得がたし、匹またなるべし、二端の布をひとつにつらねて、兩のはしよりまきて、おきたる形なり、夫婦をいはふなるべし、

〔續日本紀元七〕靈龜元年十月丁丑、蝦夷須賀君古麻比留等言、先祖以來貢獻昆布、常採此地、年時不

闕、今國府郭下、相去道遠、往還累旬、甚多辛苦、請於閉村、便建郡家、同百姓共率親族、永不闕貢、並許之、

〔東大寺要錄三〕供養東大寺盧舍那大佛記文